

医療施設耐震化整備事業の実施に係る  
病床の取り扱いについて

○医療施設耐震化整備事業について	・・・・・・・・	1
・倉病院	・・・・・・・・	3
・これまでの対応及び本案件の対応について	・・・・・・・・	7

## 医療施設耐震化整備事業について

### 1. 医療施設耐震化整備事業について

- ・「日本経済再生に向けた緊急経済危機対策」に伴う平成24年度の国補正予算により「医療施設耐震化臨時特例交付金」（以下「耐震化交付金」という。）が都道府県に交付され、二次救急医療機関の耐震化を図るための施設整備に対して助成されることとなった。
- ・耐震化交付金の管理については、国の定めた管理運営要領により行うこととされており、助成を行う条件として、病床非過剰地域において医療機関の新築建替えを行うときは、当該医療機関の病床利用率が過去3ヶ年平均80%に満たない場合は、都道府県医療審議会等の意見を聴くこととされている。

### 2. 意見聴取の対象となる医療機関の名称等

（計画の概要等は別紙のとおり）

No.	医療機関の名称	二次医療圏の名称	当該医療圏の病床の状況
1	倉病院	西和医療圏	※非過剰地域

※病床配分は行ったが、未だ開設許可に至っていない病床があるため非過剰地域の扱いとなる。



## 医療施設耐震化整備の概要

病院名	医療法人学芳会 倉病院		開設者名	倉 一彦
病院所在地	生駒市本町 1 - 7			
病床数	現 行	一般 60床	精神 床	総数 60床
		療養 床	感染症 床	
	耐震化後(計画)	一般 60床	精神 床	総数 60床
		療養 床	感染症 床	
病床利用率	74.4% (平成22年 1月～平成24年12月)			
診療科目	整形外科 外科 内科 脳神経外科 リハビリテーション科			
計画の概要	現在の施設は昭和42年に建築したもので、老朽化が著しく、特に耐震診断においては耐震ランクでも非常に危険との診断であり、これを解消するため今回の建て替え計画を行う事とする。			
耐震化後の施設の概要	建物構造 鉄骨造り 建物面積 建築面積 823㎡、 延床面積 2,832㎡			
耐震化完了時期(予定)	平成26年 7月〔予定〕			
病床数に関する考え方	<p>既存病院の病床利用率は、許可病床数60床で計算すると、74.4%となるが、6床部屋の面積が狭いため実質4床で使用している部屋が4部屋あるため合計8床が入院患者に使用できず、実質的な稼働病床数は52床となっています。この実質的な稼働病床数に対する病床利用率は概ね85%程度となります。</p> <p>新病院では、1床当たり8㎡を基本として設計し、耐震化と病床利用制限を解き、安全安心な入院環境を整える。</p>			

## 倉病院建替事業の概要

はじめに

当病院の歴史は昭和11年、現在の地に18床の有床診療所として開業以来、この間当院の理念である「地域の皆様に親しまれ 貢献し 信頼される医療を行います」を実践し地域の中心的な医療機関としての役割を担ってまいりました。昭和28年に20床の病院として医療法人学芳会を設立後、増改築を経て現在は60床で運用しております。

現在の施設は昭和42年に建てたものであり、多床室の広さも旧基準の面積であり、現基準からすれば非常に狭く入院患者には決して快適とは言えません。また、増築部分を除くと老朽化が著しく、耐震に対する安全面にも大きな不安があります。これらの観点からも、早急な建替えの必要があるとの判断に至りました。

病院の建替えは諸般の事情から移転新築を余儀なくされる医療機関が多い中、当病院は幸いにも、同一敷地内での建替えが可能な状況にあることから、今回の病院整備計画を行うこととしました。

### 【新病院の概要】

生駒市の総人口は2013年8月1日現在121,325人で2017年までは微増と予測されています。また、65歳以上の高齢者の比率は年次ごとに上昇し現在は22%となっており、この傾向は今後益々強くなることが予測されます。そのため、安心して医療を受けることの出来る病院の必要性は非常に高いものとなっています。

当院は整形外科・災害外科と内科を中心とした病院で、昨年度の手術件数は710件と、中核病院としての役割を担っております。

現病院の多床室は6床部屋で、一床あたりの面積は5.4㎡と非常に狭く、近年建替えられている多くの病院は、一床あたり8㎡が一般的となっております。そのような情勢を踏まえ、当院も平成22年より多床室を原則4名の患者で運用して行く方針で今日に至っております。そのような事から、新病院での多床室は、1床当たり8㎡を基本として設計しており、耐震化と病床利用制限を解くという大きな方針での建替え計画であります。

少しでも快適で安全安心な療養環境を整えることが不可避であるとの判断に

至りました。

### 【倉病院の理念と基本方針】

#### 「理念」

地域の皆様に親しまれ 貢献し 信頼される医療を行います

#### 「基本方針」

1. 常に学び、技の研鑽に励み、より良い医療の提供に努めます。
2. 患者さま本位の温かい医療を提供します。
3. 組織の機能を向上させ、能力を向上させ社会に役立ちます。
4. 健全な経営を常に心がけ、未来に続く病院を目指します。

### 完成予想図



#### 【建物の概要】

① 名 称	医療法人学芳会 倉病院
② 所在地	奈良県生駒市本町1番7号
③ 敷地面積	2784.09 m <sup>2</sup>
④ 構造	鉄骨造
⑤ 建築面積	823.35 m <sup>2</sup>
⑥ 延床面積	2,832.18 m <sup>2</sup>
⑦ 病床数	一般病床 60床 (うち個室 16床)
⑧ 外来患者数	175人/日
⑨ 診療科目	整形外科、外科、内科、脳神経外科、 リハビリテーション科

#### 【新病院で目指す医療】

当院は昭和11年、現在の地に開業以来、地域医療を支える中心的な役割を担ってまいりました。生駒市での病院としての歴史も当院が最も古く、長年にわたり、救急医療の草分け的な存在としてやってまいりました。現在も、輪番体制の中で、年間の半分を超える日数を救急業務の役割分担として担っております。

- ・手術室を2室とし救急医療と災害発生時に対応するための機能充実を図る。
- ・高齢化が進むなか、単に延命ではなく「健康寿命」を伸ばすことが求められています。そこでロコモティブシンドロームに対応する予防指導を充実する。
- ・リハビリスタッフを増員し、その充実を図る。
- ・生活習慣による疾病の予防医療の提供および、その治療を行う。
- ・救急医療の充実と災害拠点病院としての対応を行う。
- ・強化型在宅療養支援病院（連携）としての施設基準を届け出ており、その更なる充実を図る。

# 医療施設耐震化整備事業に係る病床の取り扱いについて

## 1. これまでの対応について

医療審議会	医療機関名	許可 病床数	病床利用率 (H20. 1～ H22. 12)	理由	結果
第46回 H23. 3. 9開催	奈良県立医科大学 附属病院	978床	74.6%	看護師不足やH22年度から7対1看護の導入で75%となっているが、耐震化整備により移転する病床はNICU、MFICUを含む周産期部門及び小児科等、地域において必要性の高い病床であることから現在の病床数を維持する必要がある。	削減なし
	市立奈良病院	300床	78.3%	国立病院機構から市立奈良病院として移譲を受けた際に、病室を面談室や処置室に転用したことや、感染症患者対策のための個室化、重症患者対応のための重症個室化、8床部屋を6床部屋にしたことによる療養環境の適正化により、実際の収用可能病床数が許可病床数より少なく、 <u>実働ベースでは80%以上</u> となっており現在の病床数の維持が必要。	削減なし
	西奈良中央病院	166床	67.6%	13床を人間ドックに使用し、 <u>6床部屋を4床部屋として使用</u> している。また、増築を繰り返していることにより動線が充分でないため病床利用率が低くなっている。 <u>実働ベースでは約80%程度</u> となっており現在の病床数の維持が必要。	削減なし

## 2. 今回の案件について

医療審議会	医療機関名	許可 病床数	病床利用率 (H22. 1～ H24. 12)	理由	結果
第51回 H25. 9. 9開催	倉病院	60床	74.4%	療養環境の適正化のため、6床部屋を4床部屋として使用しており、 <u>実働ベースでは85%の病床利用率</u> となっているため、現在の病床数の維持が必要。	